



# 双塔

カトリック新潟教会

2017年8月  
No. 351

## 聖母の被昇天の祭日について

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

聖母の被昇天の祭日は、キリスト教の最初の数世紀以来、キリスト信者の民によって大いに愛され続けてきました。すでに知られている通り、この祭日は、聖母が肉体を含めて栄光に上げられたことを祝います。神はマリアをご自分の母として選び、また、イエスは十字架上でこのかたを全人類に母として与えたからです。

聖母の被昇天は、わたしたち一人ひとりと関わる神秘を思い起こさせます。なぜなら、第二バチカン公会議が述べたように、マリアは「旅する神の民にとって確実な希望と慰めのしるしとして輝いている」(教会憲章 68)からです。わたしたちは日々の出来事にあまりにも心を奪われて、時々、この慰めに満ちた霊的な現実を忘れることがあります。この霊的な現実は、重要な信仰の真理です。

では、この輝く希望のしるしを、どうしたら現代社会にもっと気づかせることができるでしょうか。現代、自分はけっして死ぬはずがないかのように考えて生きている人がいるかと思えば、また、すべては死をもって終わるかのように考えて生きている人もいます。ある人びとは、人間だけが自分の運命を作り上げることができるかのように考えて生きています。すなわち、彼らは神が存在しないかのように考えています。神がこのわたしたちの世界に存在する場所はないとまで考えられることさえあります。

科学技術の大きな発展は、人類の生活状況を著しく改善しました。けれどもそれは、人間の心のもっとも深いところにあるさまざまな問いに答えを与えてくれません。神は愛です。この神の神秘に心を開くことによって初めて、真理と幸福に対するわたしたちの心の渇きはいやされます。永遠なるものを仰ぎ見ることによって初めて、歴史のさまざまな出来事に対して、何よりも、人間の弱さ、苦しみ、そして死の神秘に対して、真の意味が与えられるのです。

天の栄光のうちにあるマリアを仰ぎ見ながら、わたしたちは同時に、地上がわたしたちの究極的な祖国ではないことを悟ります。また、わたしたちが絶えず永遠の善へと方向づけられて生きるなら、いつの日か、わたしたちもマリアと同じ栄光にあずかることになることを悟ります。ですから、毎日、どれほど多くの困難があろうとも、落ち着きと平和を失ってはなりません。

苦しみと暴力の悲しむべき暗闇が地平を覆っているかのように思われるとき、被昇天の輝くしるしはいっそう輝きを放ちます。わたしたちは確信しています。マリアが天の高みから、優しい気遣いをもってわたしたちの歩みを見守ってくださっていることを。暗夜と嵐のときにわたしたちを力づけてくださることを。母の手でもってわたしたちに心の安らぎを与えてくださることを。

このような自覚に支えられながら、信頼をもって、神の摂理がわたしたちを導いてくださるところに向けて、キリスト信者として生きるべき道を歩み続けようではありませんか。

教皇ベネディクト十六世の61回目の一般謁見演説  
翻訳：カトリック中央協議会



## そよかせ便り

### ■ 米沢殉教祭 ---- 7月9日(日) 11:00 ----

毎年この季節は雨天か曇天のことが多いが、今年は梅雨の晴れ間の真夏日となり、殉教祭のミサが始まる午前11時には30℃を超える厳しい暑さの中、菊地司教様と山形地区の司祭団の共同司式でミサが捧げられた。ミサに与った信徒の殆どは山形地区(米沢、鶴岡、山形、新庄)から参加され、その他の地域では、京都(河原町教会)から2名、ベタニア修道女会シスター5名、長岡教会、新潟教会から各1名の参加があった。

司教様の説教では、「私たち自身の今の孤独、孤立が支配している世界の中で生きているキリスト者はやはり、今の時代だからこそ、私たちの信仰の特徴である教会共同体を強め共同体の中で互いに支え合っていくその共同体の支えの中でお互いの信仰をしっかりと育て、強めていくその共同体の支えがあるからこそ、私たちは信仰を力強く生きていけることができ、今日の殉教祭にあずかって私たちの教会共同体を改めてどういう形で育てて行くのかということ殉教者の取次によって、より強い共同体を作っていくことが出来るように祈りたいと思います」と締めくくられた。また、説教の後には米沢教会から4名の方が堅信の秘跡を授かった。

来年は53名の福者殉教者が列福されて10周年となる。教区主催で行われる記念行事の計画などが歩み始めるものと思われる。より多くの信徒の皆様が、殉教祭に参加されることが望まれる。

### ■ 日本カトリック難民移住移動者委員会東京管区セミナー

「知っていますか? 外国人技能実習生」 ---- 7月15日(土) 13:00 ----

日本カトリック難民移住移動者委員会が主催して、各教会管区ごとに毎年開催しているセミナーのうち、新潟教区が属する東京教会管区でのセミナーが新潟教会を会場に開催された。新潟教区の担当司祭であるロレンツ神父様は「これは外国人のためというより、むしろ日本人信徒のため、そして、できるだけ新潟の信者の皆さんに参加してほしいものです」と話していた。

開催日当日はそれまで比較的凌ぎやすかった天候が一転して猛烈な暑さとなり、急遽会場をセンター2階ホールからエアコンのある1階研究室へ移動しての開催となったが、各教区担当者のほか新潟地区の各教会から30名ほどが参加した。

初めに、「移住者と連帯する全国ネットワーク」代表理事・鳥井一平氏が「知っていますか。外国人技能実習生」と題して講演。「外国人技能実習制度」の概要と問題点を、日本政府が職種を限定したビザ(専門職・興行ビザなど)を除き、一般的な就労ビザを発給していないことからくる矛盾、特に日本人には適用される労働基準法が技能実習生には適用されない実態について、実例を示しながら紹介された。

休憩を挟んだのち各教区の現状が事前に行われたアンケートの結果とともに報告された。新潟教会でもベトナムからの信徒の方々が日曜日のミサには熱心に与っているが、同じような状況が他の教区からも報告された。言葉の問題に苦慮しているのはどこでも同じようだったが、BBQ大会に誘うなどして人間関係をつくるなど、それぞれに工夫をしている様子が伺われた。

最後に、菊地司教様の司式で「み言葉の祭儀」が行われ、セミナーを締めくくった。

### み言葉の祭儀での菊地司教様の説教から

- \* 神さまは、新庄教会の例のように、外国人信徒という宣教師を地域社会に派遣されている。
- \* 神さまは、いろんな人が教会にやってきて関わることで、私たちが「すべての人とキリストのひとつのからだを作っている」と認識する機会を与えてくださっている。
- \* 私たち自身も、外国人信徒に与えるだけでなく、外国人信徒から信仰を育てる恵みを与えられている。豊かにしてもらっていることに感謝したい。

---

**カトリック新潟教会 月刊「双塔」** 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行 / カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部  
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL : 025-222-5024 FAX : 025-222-5054